

2006年度夏の学校三者総会議案書

2006年度三者事務局・神戸大学

1 2006年度準備校（京都大学）

文責：谷口億宇（京都大学）

1.1 活動報告

三者準備校の活動報告および、質疑応答、議論を行います。

2 2006年度センター校（九州大学）

文責：小島健太郎（九州大学）

2.1 活動報告；援助と協賛について

2006年度三者センター校は例年通り、以下の団体に対して経済的援助あるいは協賛を依頼し、承認を得た。

- **援助**： 基礎物理学研究所: 50万円*、素粒子論グループ: 45万円
- **協賛***： RCNP(核物理研究センター)、原子核談話会、高エネルギー研究者会議

* 基研からの経済的援助は講師旅費とポスター印刷費を合わせて(上限) 50万円。

また、ポスター印刷費(上限10万円)は実際にかかった費用のみが支払われる。(今年度は¥56,700)

* 『協賛』とは、三者の配布する夏の学校の宣伝ポスターに『～協賛』の文字列を入れること、及び機関紙等において夏の学校の宣伝をさせて頂くことを許可して頂いたという意味である。

2.2 2006年度夏の学校決算報告(暫定版)

2.2.1 収入予定

(1) 前年度繰越金: ¥1,480,000 (確定)

(2) 参加費(参加者が300名の場合): ¥4,000 × 300 = ¥1200,000 (予定)

(3) 外部団体への援助・協賛申請: ¥950,000

収入合計: (1) + (2) + (3) = 363万円

2.2.2 支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。

役職校	担当大学	今年度決算予定額 (申請額)	前年度決算額
三者センター校	九州大	(3,000)	340
三者事務局	神戸大	(4,000)	0
三者準備校	京都大	(360,000)	221,501
三者名簿校	広島大	(0)	0
三者 HP・ML 校	早稲田大	(0)	0
素粒子パート事務局	埼玉大	(0)	0
素粒子パート準備校	金沢大	(23,000)	17,413
原子核パートセンター校	千葉大	(0)	0
原子核パート準備校	東北大	(13,200)	16,262
高エネルギーパート準備校	東京大	(5,000)	3,000
講師旅費		443,000	120,340
ポスター印刷費 (上限 10 万円)	56,700		53,025
学生旅費補助		-	1,336,588
次年度繰越金		-	1,480,000
計		363 万円 (= 収入)	3,248,469

2.2.3 各三者役職校の支出

- 三者センター校 (九州大学)

申請項目	申請額
振込手数料	3,000
申請額合計	3,000

- 三者事務局 (神戸大学)

申請項目	申請額
コピー代	4,000
申請額合計	4,000

- 三者準備校 (京都大学)

申請項目	申請額
下見・交通費	20,000
施設使用料金	150,000
コピー代	60,000
文具代	30,000
通信費	30,000
郵送費	40,000
払出し手数料	30,000
申請額合計	360,000

2.2.4 各パート役職校の支出

- 素粒子論パート

－ 素粒子論パート準備校 (金沢大学)

申請項目	申請額
録音関係費	13,000
機材送料	6,000
消耗品代	2,000
研究会費	2,000
申請額合計	23,000

● 原子核パート

－ 原子核パート準備校 (東北大学)

申請項目	申請額
「原子核研究」配送費用	10,200
文房具代	3,000
申請額合計	13,200

● 高エネルギーパート

－ 高エネルギーパート準備校 (東邦大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
文房具代	5,000	0
懇親会代	0	3,000
計	5,000	3,760

2.3 各役職校の決算提出について

決算時には、以下の手続きをして頂きますので各役職校の方はご承知下さい。

● 領収書の郵送

領収書は決算時に三者センター校 (九州大) まで、まとめて郵送して下さい。

決算報告 (メール) と見比べやすくするため、領収書の上下隅もしくは裏面に番号を振って下さい。

● 決算報告の提出 (メール)

決算報告をメールでお願い致します。このとき、各項目にどの領収書が対応しているかが分かるようにして下さい。詳細については後日連絡します。

例年、秋の学会にて決算報告が行われていますが、今年度は素粒子論、素粒子実験領域がハワイ、核物理が奈良女子大学で行われるため、yonupa-ml において決算報告を行うことを考えています。各役職校のセンター校宛の決算報告、領収書提出の締め切りは、『**8月31日(木)**』とします。期日までに提出できない場合には下記連絡先に必ずご連絡下さい。連絡も領収書の提出もない場合には、三者からの支払いができない場合がありますのでご注意下さい。

連絡先

〒 812-8581

福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学理学部物理学科

素粒子論（粒子宇宙論 I）研究室

2006 年度 三者若手夏の学校 三者センター校 宛

E-mail : yonupa-haihai@higgs.phys.kyushu-u.ac.jp

phone : 092-642-2556 fax : 092-642-2553.

2.4 基研からの援助金 (講師旅費) の使い道について

以下は今年度の基研からの援助金の使い道に関する報告です.

(注. 例年, 基研からの援助金は「現金化」という方法により, 使用されていたが, 2005 年度の夏の学校での三者総会により, 現金化の廃止が決定された. 詳しくは, 過去の議案書・議事録等を参照して下さい.)

- 旅費以外の使用許可に対する交渉

センター校は, 2005 年の秋頃から, 基研の補助金を旅費以外へ使用する許可をもらえるよう, 基研の組織助手の方に交渉を行った. しかし三者への補助金は, 基研の財源のうち旅費としてのみ使用を許されている財源から捻出されており, 旅費以外に使用することは不可能という結論を得た.

- 「講師旅費」の使い道

来年度も例年同様基研からの援助を得るには, 今年度の予算 50 万円をほぼ使いきることが必須である. このため, 今年度は各パート研究会でトークをする学生のうち, 旅費補助を希望した方に, 基研の予算から旅費補助を行うことにした. (例年実際に講義を行う講師の方には, 出来る限り自身の旅費で来てもらうようお願いしている.) ちなみに今年度実際に基研予算から旅費補助を行う学生トーカーは 7 人の予定である.

- 苦慮した点: 旅費が不足する可能性

学生トーカーに基研旅費を使う場合, 基研の規定する一人当たりの旅費に下限があるため, 旅費補助にかかる総額が 50 万円を越える可能性がある. ちなみに今年度の学生トーカーの人数は,

- － 素粒子: 7 人
- － 原子核: 15 人
- － 高エネ: 16 人

であり, もし全員が旅費を希望した場合, 一人当たりの旅費を 4 万円と見積もった場合,

$$4 \times (7 + 15 + 16) = 152 \text{ 万円}$$

となり, 基研の補助額を大幅にオーバーする. この場合, 足りない旅費は基研補助金以外の予算で賄わなければならない, その結果遠隔地補助に使用できる金額が減少してしまう. 今年度はそのような事態にはならなさそうだが, 学生トーカーに旅費補助を行うなら, 常にこのような可能性は避けられない.

以下は来年度の基研からの援助金の使い道に関する提案です.

今年度センター校がとった方法は、まだ改善の余地があると思われます。そのため 2006 年度センター校としては、来年度の基研からの援助金は、2007 年度のセンター校の裁量で使用方法を決めることができるのが望ましいと考えています。特に反論が無い場合は、承認をお願いします。

3 2006 年度高エネルギーパート準備校 (ICEPP)

3.1 各パート校との連携について

3.1.1 ML

他パートの情報がほとんど流れなかった。進捗状況などはお互いに報告しあうのが基本。
また、sansha-ctr@yukawa.kyoto-u.ac.jpなどは、うまく活用されていない。ML で投げたものに対してレスがないなど、責任がはっきりしていない。知っている人、意見がある人がレスをしたりするのは当たり前。スケジュールなど、不透明な部分が多すぎ。個人宛のメールが多い？
yonupa-ml@yukawa.kyoto-u.ac.jp に認められるまで、3ヶ月以上かかった。管理を担当しているところは何をしているのか。ML ごとの範囲がわかりにくい。もっと統一してもいい気がする。この辺りに関しても、担当校同志の連携が薄いのがよくわかる。もっと、連携とった方がいいんじゃない？

3.1.2 HP

三者のページ更新に関する情報は、少なくともパート担当校の人間には連絡しましょう。いつ、どこで変わったかが、こちらも把握できない。結構重要な情報を載せていると思うんだけど。

3.2 募集方法について

3.2.1 パート校への連絡

準備校が参加者を集めていたが、それではパートにどれくらい的人数が集まるのか、どの大学からは来ているのかなどの情報がなかなかパート校に伝わらない。連絡を密にするのもひとつだが、パート校に募集を任せるのがよいと思う。特に宣伝方法に関しては、各パート校のほうがより詳しい。パート校で人数を把握して、それを準備校に渡すというのがひとつの方法かと。

3.3 宣伝方法について

高エネルギーパートでは夏の学校を知っていた人がほとんどいなかった。これはもちろんこれまでのパート校にも責任があるが、例えば、yonupa-mlを知っていた人などいなかった。パート校に任せたりもりで、準備校やセンター校は、人数が減っていくことを単に放っておいただけではないか？三者の意味がこの辺りでも薄れている感じがする。

4 2006年度事務局校（神戸大学）

文責：北川大輔（神戸大学）

4.1 活動報告

- 2005年8月 2005年度三者事務局（名古屋大学）から引き継ぎ
- 2005年8月～9月 秋の三者総会の運営
- 2005年11月 春の三者総会のためのインフォーマルミーティングの申し込み（インターネットにて申し込み）
- 2006年3月 春の三者総会の運営
- 2006年7月～ 次期役職校選定のための交渉
- 2006年7月～8月 夏の学校における三者総会の運営

4.2 会計報告

内訳	申請額	使用額
コピー代	4,000	0
計	4,000	0

これで確定です。

4.3 役職校の選定（承認）

2009年度センター校	金沢大学
2009年度準備校	筑波大学・東京工業大学
2008年度事務局	総研大学
2008年度ML・HP管理校	茨城大学
2008年度名簿校	千葉大学

以上について承認をお願いします。

4.4 秋の三者総会の開催方法についての提案（承認）

今年度の秋の学会はハワイで行われるので、気軽に参加できません。よって人が集まらず、秋の三者総会を学会で行うのは困難だと思います。また、三者総会のためだけに、どこかに一同会するというのも無理な話かと思います。

そこで、今年の秋の三者総会はメール上で行ないたいと思います。つまり、議案書が公開されたら、意見・質問などを募集し、それに担当の役職校が答え、そしてある期日に提案に対して多数決をとる、そしてこれらのやり取りは全て yonupa のメーリングリストに流してもらいたいと思います。なお、期日の設定、多数決の取りまとめは事務局にさせていただきたいと思います。

以上について、承認をお願いします。